

スマイルタイムズ

No. 232

乳がんのリスクの検査

実はがんの殆どは遺伝によるものではないと言うのが医学会の通説です。95%は生活習慣などによって導かれた後天的なもの。残り5%が先天的なものと言われます。ただ、「遺伝性のがん」とは親から突然変異した「がん抑制遺伝子」を受け継いでしまった状態を指します。この変異した抑制遺伝子が働かないとその人はがん細胞の増殖を抑える力が弱いということになります。

検査機関における大手、「ファルコバイオシステムズ」社（当院もこの機関を利用しています）によれば「検査方法はごく一般的な採血を行うだけ、集めた血からDNA情報を取り出し、遺伝子、例えばBRCA1に変異があればその人は今後乳がんを発症するリスクが40~90%ある、とかいう判断をするわけです。アメリカの女優、アンジェリナ・ジョリーはこの検査を受け、87%の確率で乳がんになるリスクがある、と言われて乳房を全部切り取りました。一般の女性の乳がんの生涯発症リスクは10%なので検査をした意味はありますが、それとて100%確かではないのです。

一昨年より昨年は27万人減

さる7月1日、総務省は今年元日現在の日本人の人口は1億2616万3576人と発表しました。前年より27万1千人余の減少で過去最大の減り方。6年連続で前年割れしていて、人口減少が加速していることが分かります。

出生者数は100万3554人、1979年以来最少。死亡者数は127万0311人で最多。死亡者数が出生者数を上回る自然減（海外赴任や留学などを除く）は26万6757人で過去最多。65歳以上の老年人口は3268万余、全体の25%、15歳未満は1631万余、老年が若年の2倍を超えました。地方から東京への人口流入も歯止めがかかっていません。

平成 27 (2015) 7 月 27 日 (月)

発行者 小浜市多田 2-2-1 中山クリニック 院長 中山 茂樹

[http://www. Nakayama clinic. Jp](http://www.Nakayama clinic. Jp)

前年より人口増は6都県。東京都7万余、神奈川県1万余、埼玉県1万弱。東京都圏の一極集中が目立ちます。

政府の言う地方創生、中央から地方へ、のスローガンも効果は現れていません。



日米間の麻薬感覚

この4月にトヨタ自動車の常務役員に抜擢されたアメリカ人女性ジュリー・ハンプさんが「麻薬」の密輸で逮捕され7月に解任されましたが、日本警察が不起訴にしたとたん、日本の訳知り顔の知識人がトヨタの顔で不起訴！とか書いていました。このことでいくつか考えてみます。1) 彼女の取り寄せたオキシコドンは鎮痛剤で50歳以上の関節の痛みを和らげる薬、医者処方箋で町の薬局で買えます。年間120トも販売されている超人気薬。だから米国では麻薬としては扱われていません。2) その薬効成分はオピオイドで阿片から造られます。つまりモルヒネやヘロインと同じ、だから境界線上にあるのです。3) 他方この薬の副作用は抗鬱効果。ハッピーになれるのです。これで中毒になり摂取量が増えて行き、過剰摂取の事故は年間50万件以上と言われています。さて、日本がこの薬を「麻薬」としたのは賢明だったようです。所変われば品変わるの一例でしょう。

... ..

《あとがき》 1) 今年も7月中旬からは猛暑が続きます。以前は北海道にはクーラーのある家はなかったのに10年程前からは随分増えたということです。2) 当院ミニギャラリーは6月末からは藤田京子さん(小浜市甲ヶ崎)の水彩画です。藤田さんはかつてはNHKの婦人番組を担当されていました。今は専ら精密な水彩画です。魚などの写真かと見まがう筆致をご覧ください。